

会 議 録

会議の名称	令和4年度第3回上尾市立中学校給食共同調理場運営委員会	
開催日時	令和4年10月27日(木) 午後2時～2時50分	
開催場所	中学校給食共同調理場2階研修室	
議長(委員長・会長)氏名	村田 正則	
出席者(委員)氏名	武田 直美、酒井 一昭、塚崎 瑞起、岡村 克之、藤波 由浩、栗原 啓佑、今井 真美	
欠席者(委員)氏名	大澤 聡、河合 弘樹、山本 良彦、伊藤 裕之	
事務局	小林所長、棚澤副主幹、湯浅栄養教諭、大野栄養教諭、佐藤主査栄養士	
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果
	今後の給食提供方式について ・中学校給食の現状と課題 ・学校給食に関するアンケート実施概要 ・各方式のメリット・デメリット (その他) (1) 令和5年度中学校給食実施計画表(案)について (2) 学校給食費の改定について	承認 承認 事務局提示資料を持ち帰り、次回運営委員会で意見聴取を行う。 — —
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者数 0名
会議資料	別添	
<p>議事の内容・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和 4 年 11 月 15 日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 <u>村田 正則</u></p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)</p>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項等
事務局	1 開会
村田会長	2 会長挨拶
村田会長	3 議事 <u>今後の給食提供方式について</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>中学校給食の現状と課題</u> ・ <u>学校給食に関するアンケート実施概要</u> <p>〔事務局より会議資料（資料1、2）に基づき説明。〕</p> <p>〈主な質疑〉</p> <p>藤波副会長 資料1「中学校給食の現状と課題」の中で、現在の学校給食衛生管理基準に適していないとの記載がある。施設建設当時は基準を満たしていたが、その後の基準変更により現状では満たしていないため、今後建て替えの際には現行の基準に従う必要があるということか。</p> <p>事務局 学校給食衛生管理基準は努力規定になっているが、安全安心な給食を提供するため、同基準を満たした施設・設備でしっかりと対応していく必要があると考えている。</p> <p>藤波副会長 センター&サテライト方式とセンター方式の一食当たりの運営コストについて記載があるが、小学校の自校方式だと参考までにいくらになるか。</p> <p>事務局 一食当たりの運営コストではわかりにくい点もあるため、次回の運営委員会で小学校の自校方式を含めた各方式の総額の概算コストをお示ししたいと考えている。</p> <p>今井委員 喫食までの時間が2時間を超過しているとの記載があるが、2時間を超過しているのが何校くらいあるのか。概ね実施できているといえるのか。</p> <p>事務局 献立によって異なり、何校が2時間を超過しているか回答することは難しいが、センターから離れた学校もあることから、概ね達成できているとまでは言えないのが現状である。しかし、衛生管理基準に定められている以上、2時間以内に提供できるよう調理面で工夫するなどして、できるだけ努力は続けている。</p>

3 議事

今後の給食提供方式について

・各方式のメリット・デメリット

〔事務局より会議資料（資料3）に基づき説明。次回運営委員会で各委員から意見聴取する旨を説明。〕

藤波副会長

資料3「既存給食提供方式のメリット・デメリット」の内容について次回の運営委員会で検討するにあたり、資料に記載されている用語について確認したい。「親子方式」とは拠点となる親側の学校に調理場を置いて、そこで調理した給食を周辺の子側の学校にも提供と思われるが、その場合、子側の学校には調理設備がないということか。

事務局

子側の学校では、配膳台置き場や親側から給食を受けるためのスペース、給食を上階に運ぶダムウェイター及び牛乳保冷庫等の最小限の備品があり、現状のサテライト給食室よりも簡素なものとなる。

藤波副会長

その場合、「校舎への影響」の中で、校舎更新に大きな影響を与えてしまうとあるのは、親側の学校について該当するということか。

事務局

ご指摘のとおりである。自校式の場合は1校分の面積と設備・備品で済むが、親子方式の親側の学校では自校式よりも広い面積と多くの設備・備品が必要となる。

藤波副会長

「食育」の中で栄養教諭等との記載があるが、栄養教諭等の配置基準について、次回運営委員会で説明して欲しい。

事務局

次回運営委員会で説明させていただく。

武田委員

現在のセンター&サテライト方式では、サテライト給食室の調理員がセンター調理品の受けや配膳を行っているが、親子方式の場合、受け側の学校では教職員が対応することになるのか。

事務局

今年7月に親子方式を採用している他市の事例視察を行った際には、委託業者が親子両方の業務を行っており、子側では親側で調理した給食を受けた後にダムウェイターに載せ、各階でそれを受けるなどの業務を行っていた。

武田委員

以前勤務していた学校がある市ではセンター方式を採用しており、センターからの搬入までについては業者が行っていたが、校舎側のシャッターを上げて、ダムウェイターに載せたりするのは給食担当の教員が行っており、給食の時間も決まっていることから相当な負担になっていた。

4 その他

(1) 令和5年度中学校給食実施計画表(案)について

(2) 学校給食費の改定について

〔事務局より会議資料に基づき説明。学校給食費改定については、昨今の給食食材価格高騰の状況を踏まえて、食材納入業者から見積額を検討したうえで、次回運営委員会において令和5年度の給食実施回数とあわせて、事務局案をいくつか提示する旨を説明。〕

〈主な質疑〉

武田委員

令和5年度中学校給食実施計画表(案)に関して、令和5年度の体育祭は、従来と異なり各学校で決める可能性もある。

事務局

今回参考までにお示ししている令和5年度中学校給食実施計画表(案)では、体育祭の振替休日を反映して例年どおり給食を実施した場合、合計186回としている。但し、学校給食費改定とあわせて次回事務局案を提示させていただく場合には、この186回から実施回数を減らさせていただきたいと考えている。その上で、まだ事務局で検討段階であるが、体育祭などの学校行事に関連して、お弁当対応も含めて学校全体で欠食する日を各学校で何日か設定いただくことにより、給食費の値上げ幅を抑えるあるいは値上げを回避することができたらと考えている。

武田委員

現状を考慮すると、個人的には回数を減らしても良いかと思う。現場では、各学期終了の直前まで給食を提供している現状を見直してもよいのではとの意見もある。

事務局

事務局案を作成するにあたり、始業式や終業式の関係があると思うが、大まかにどれくらい減らすことができそうか、参考までにご意見いただけると有難い。

武田委員

例えば、令和5年度の1学期であれば、給食実施計画(案)では7月20日(木)の終業式の2日前の18日(火)までとなっているが、前の週の14日(金)でもよいのでは。また、2学期、3学期も1日くらい減らせるのではと個人的には思うが、職員にも聞いてみる。

事務局

学校側でどの程度回数を減らすことができるかについての案をいただくと有難い。

酒井委員

給食実施回数を減らさずにすむ方が、良いのは確かである。一方で学期末の時期は、教員が生徒の成績をつける時間を確保するために各校とも比較的授業を短縮していることから、各学期で1日程度であれば給食実施回数が減っても構わないと思う。一方で、中学校では部活動があるため、保護者にとっては弁当の日が増えてしまうので、その分は負担になってしまいが、給食の質を確保するという点からやむを得ないのではないか。

藤波副会長	保護者としては、給食回数が減ると負担が増えることになる。例えば学期末に給食を1回減らした場合、その日は部活動もあわせて行わないこともあるのか。
村田会長	学校によってはあると思う。
事務局	食材費上昇分を単純に給食費に換算して機械的に何回減らすということにはならないよう努力していきたい。
村田会長	教職員からは働き方改革を考えると給食回数を減らしてもらおうと助かるとの意見は出ている。一方で保護者負担についても考慮する必要があると思う。なお、来年度の給食回数を減らすことについて校長会で取り上げるにあたり、何回程度減らすかについて目安が欲しい。
事務局	今月末には業者から価格が提示されるので、早急に事務局で検討を行った上で、会長にお示してご説明させていただきたい。
事務局	<p>5 報告・連絡事項</p> <p>次回の運営委員会は、令和4年11月15日(火)午後2時からを予定している。追って文書にて通知する。</p>
藤波副会長	閉会あいさつ